

企業紹介

皆様の笑顔ある生活づくりに貢献します
～福祉・介護用品の「助さん」シリーズ～



越後工業株式会社

代表取締役 木川 勇三
〒949-4351 三島郡出雲崎町大字沢田121-2
TEL(0258)78-4011 FAX(0258)78-4426
http://www.sukesan.jp/

業 種：自動車部品製造
資 本 金：4,200万円
事業内容：自動車用鋳造部品加工・金型、プレス金型の製造、各種工業用ゴム・スポンジ加工、福祉関連機器の開発・製造

自動車部品加工で培ったノウハウを活かし、新規事業として介護用品の開発および製造を進める越後工業(株)。雪道でも安全な杖、車輪の一部が開き乗降しやすい車椅子、人間工学に基づいた乗り心地のよい車椅子など、利用者の要望を聞き、付加価値の高いこれまでにない介護用品を開発する。

自動車部品から介護用品まで

同社では、主として自動車のブレーキ部品加工やゴム・スポンジ加工などを行ってきた。2000年には事業の多角化を図るため、成長が期待できる福祉分野へ参入。自動車部品製造で培った技術力を活かし、介護用品の開発、製造を開始した。そして、同社の介護用品の第1作目となったのが、2001年に発売した、雪道でも埋まらない杖「助の杖」だ。「雪道でも転ばないように安全な杖が欲しい」という一枚の手紙をきっかけに開発に着手。杖の先に得意とするゴム加工を施した同製品は、インターネット等を介して、年間2～3千本程度販売されている。



▲雪道に強い「助の杖」

簡単にベッド移動が出来る車椅子「輪助」

また、2003年には、車椅子利用者が介助なしでベッドと車椅子間を自由に乗り降りできるよう、車輪の3分の1を切り離した車椅子「輪助」を試験開発。この独創的なアイデアは、木川社長が街で見かけた車のホイールのデザインをヒントにしており、同社のこれまで蓄積した特殊タイヤの製造技術を活かして開発が進められた。その後、2007年には、優れた技術や創意工夫のある実用的な福祉器具の開発事業者に対する国の支援事業（NEDO「福祉用具実用化開発推進事業」）等にも選ばれ、本格的な車椅子設計に着手。安全性、快適性を向上させた「輪助」を完成させた。



人間工学に基づいたオーダーメイド車椅子の開発

さらに現在、同社では新潟工科大学と共同で、長時間車椅子を使用することによる床ずれや疲労を防止するため、人間工学に基づいた、利用者の体型に合わせた形状・材質の車椅子の開発も進めている。「機能性、乗り心地を追求したオーダーメイドの車椅子への潜在的需要は高いです。安全で快適な車椅子を提供することで、家にこもりがちな体の不自由な方も外へ出かける機会が増え、行動範囲も広がるのではないですか」と木川社長は語る。今後は、こうした自社独自の車椅子の特徴をPRし、ニーズの高い病院や介護施設などへの販路拡大を目指す。



▲「輪助」について説明して下さる木川社長